

## 1.長期成長ビジョン

- ・長期成長ビジョンを策定し、自動車の電動化というメガトレンドに対応する計画を策定
- ・自動車用プレス部品の価値を長期的に維持するために、世界で戦える競争力をつける
- ・多品種小ロット生産の自動化により、将来にわたって自動車産業に貢献する。プレス部品のビジネスモデル変革を変革し、日本のものづくり力を強める

## 長期成長ビジョン

### 「プレス部品の一貫完全自動生産」により世界と戦える競争力を得る メガトレンドへの対応

- ◆設計から納品までの一貫自動化・省力化でQCD競争力を高め、自動車産業のEVシフト、国際競争に貢献する
- 省力化で採用難に対応し、競争力を高め、自動車製造におけるプレス部品の地位を維持・向上
- 完全自動化生産ができればコスト競争力が得られ、将来は自動車業界以外への転用も可能（建設、家具などのプレス部品＝ものづくり産業に貢献）  
**多品種小ロット生産自動化の先駆けとなり、業界のビジネスモデルを変革する実現の方法**

#### ①一貫完全自動生産工場の構築、物流の効率化、自動倉庫の導入

強みである自動化技術を深化させ、プレス加工、溶接、工程間輸送、集荷・出荷を自動化・省力化・無人化する。最終的に一気通貫の完全自動生産体制を構築する

#### ②金型データのDX化、設計力強化で技術力強化、付加価値向上

過去の約25,000件の金型設計データを活用し、金型製造を自動的に行う仕組みを構築。設計力の高度化をし、樹脂材料にQCDで勝る製品開発を行う

#### ③社員の福祉の充実（経営理念）

社員がいきいきと働けるよう、職場環境、ワークライフバランス、給与制度、教育・研修の拡充を継続的に行う。社員に選ばれる会社になる

#### 会社全体の売上成長目標（2030年まで）

- ・売上高成長率 168%
- ・売上高増加額 304億円

#### 会社全体の賃上げ目標

- ・106%（直近事業年度～基準年度）
- ・124%（基準年度～事業化報告3年目）

※コンソーシアムの合計値

### 外発的動機

#### 社会課題

- ・EVシフトや世界競争激化でプレス部品の付加価値向上が必要
- ・**物流の2024年問題（トヨタ自動車が効率化を要望）**
- ・EV、ハイブリッド車で電子部品の車体への締結パーツの需要が増大
- ・少子化、高齢化で人材採用が困難  
→時代の変化に合わせた“ものづくり”変革は必要不可欠（自動化・省力化・付加価値向上・社員主導）

#### 顧客ニーズ（トヨタ自動車）の変化

- ・仕入先活用拡大（ホーム＆アウェー戦略）
- ・電動化拡大、新技術導入で仕入先にはNo.1ものづくり、世界的な競争力が求められる  
→海外企業との競争に勝てないと選ばれない

### 経営者の内発的動機（原体験）

- ・**海外競合先（特に新興国）との競争激化**を感じる  
このままでは新興国の現地調達化が進み、国内プレス産業衰退
- ・異種材料活用（金属から樹脂活用）が進み脅威
- ・少子高齢化により年々採用は厳しさを増す  
→当社を含め、日本のプレス業界存続に危機感がある

### 【目指す方向】

#### ものづくり変革で世界に打ち勝つQCD競争力をつける

- 省人化、自動化設備の導入
- 最新技術活用と独自開発技術の組み合わせで競合との差別化
- 部品屋ではなくシステムサプライヤーの立場に変革

## 2.補助事業の概要

- 自動車用プレス部品の競争激化で世界と戦える競争力が必要
- 材料投入から出荷までの一貫完全自動生産システムを構築し、省力化、生産性向上を図り、生産能力を拡大
- 自動倉庫システム導入などで物流問題に対応し、金型データDX化により生産準備時間の短縮を図る

## 補助事業の背景・目的・方法

**背景**：EVシフトや国内自動車生産数頭打ちでプレス部品の競争激化

**目的**：世界と戦える競争力を得て競争に勝ち抜き売上を拡大させる

**方法**：①一貫完全自動生産工場の構築、自動倉庫の導入  
②金型データのDX化、③設計作業の取り込み

事業費  
(補助額)

94億円  
(23億円)

## 設備投資の内容

①一貫完全自動生産工場の構築、自動倉庫の導入

- 新工場建設（含む造成など）
- 自動倉庫システム
- 入出庫管理ソフト
- AGV（無人搬送車）、AGV関連建設
- 自動溶接ライン無人化※
- 高速プレスライン無人化※



②金型データのDX化  
・ビッグデータ、AI化による技術ナレッジと金型自動設計システム  
・金型自動加工ライン※ ※自己資金で導入予定

## 課題解決

- 採用難が進む →一貫完全自動生産工場で省力化、労働負荷の低減で未経験者・女性・シニアにやさしい労働環境を確立
- 生産数増加 →一貫完全自動生産工場による省力化、製造リードタイム削減で、人手不足の中でも生産数増加が可能
- 競争激化 →一貫完全自動生産工場で圧倒的な価格競争力を築く。金型データのDX化で短納期化、設計作業取り込みで付加価値を増す
- 物流問題による巡回集荷開始 →一貫完全自動生産の自動集荷・出荷機能で顧客の要望に合う荷姿を自動で提供。巡回集荷に対応

## 労働生産性向上

省力化、生産性向上で、労働生産性が増加

- プレス、溶接、表面処理、検査、集荷・出荷の各工程を自動で実施
- 工程間はAGV、上下搬送機などで自動輸送化
- パレタイジング自動化で出荷準備の無人化
- 新工場（自動倉庫設置）により点在していた完成品置き場を集約し、拠点間物流を整流化（ジグザグ運搬撤廃）

## 目標値

項目	2027年度（基準年度）	2030年度（基準年度 + 3年後）
労働生産性（単位：万円/人）	3,668 / 664	6,529（年平均上昇率 +21.2%）/ 1,117（同+18.9%）
従業員1人あたり給与支給総額（単位：万円/人）	599 / 456	719（年平均上昇率 +6.3%）/ 558（同+7.0%）
役員1人あたり給与支給総額（単位：万円/人）	—	—
補助事業に係る従業員数（単位：人）	98 / 95	101（年平均上昇率 +1.0%）/ 98（同+1.0%）